

## A③ 25,9 本の整理第4Step 60年前の思い出～第1次登山ブーム: 深田久弥の『山岳遍歴』を読んで!

御法川齊

自身の遍歴を淡々と記したように見えるが、古来から第1次登山ブームに至る歴史が巧みに記載され、当時の先達として読み応えがある古典的名著。

頂上に観音や地藏を祀った信仰登山から江戸末期僧侶の笠ヶ岳、槍ヶ岳の初登頂。最後に残されたのは剣岳だったが明治40年に陸地測量部の登頂で平安時代の修験僧の持物を発見! 僧侶の執念に脱帽。⇒小説、映画の「剣岳 点の記」になりご覧になった方も多いと思われる。(高橋さんと言う登山家が調査し本を出す予定22年?) ~最後の雑記の第1番の“ジュースの空き缶”の話は将に時宜を得た警告で“他のゴミと共に穴を掘って埋めれば良い!”との認識だった。当時は空き缶は鉄、ゴミは紙類で腐食し土に戻るとの判断だった。その後、急速にアルミ缶、プラ類に変貌し腐食しない状態になった。⇒HC ハイキングクリーン等で過去のアルミ缶、プラ類も穿り出して(雨後が良い)回収している所以です。

\* (追記1) 22,9,25 日経日曜版 北ア最後の秘境・黒部峡谷の奥の燕岳から近いが登山ルートは?

「登山文化を問う伊藤新道」なる記事と情報検索によれば、湯俣温泉から三俣山荘(北アルプスの高瀬川上流の最深部)迄の秘境部まで湯俣川でプロが渡渉を繰り返して行ける新道を復活中らしいですが何度も崩落し大変そう。「湯俣温泉」は、標高1534メートルの高瀬川の上流にある湯俣川と水俣川の合流点にあり

\* (追記2) 25,9,4 日経・文化欄によれば企業で働くバリバリ研究者が趣味で例の熊野古道の一部、葛城修験道の復旧と調査を20年以上継続している由。趣味と使命感もここまで来れば脱帽。

御法川齊